



好色一代男 8冊 WA9-3 07-001

国立国会図書館





W 21630/22

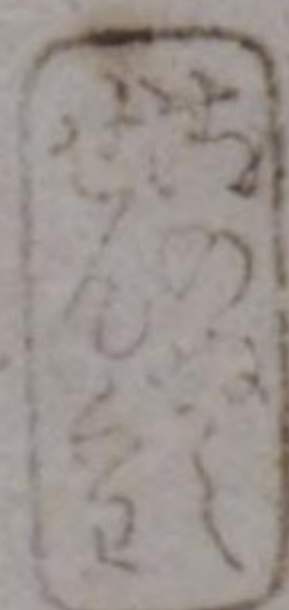
好色一代男



- 五十九歳
- 五十八歳
- 五十七歳
- 五十六歳
- 五十五歳

そのことよ
喜笑の物し
徳原右のり
本社らくあ
今のか
人のきぬ
親町
はす
江
新町
今

五月録



好色一代男 8冊 WA9-3 07-002

国立国会図書館





附
つ
り
の
方

懸て、其の風情天津の妹なれど、是とて、
弟乃、其の、千節利体も、
能く、
酒の、
両乃、
か、
は、
何、
で、
と、
色、
一、

赤
布

全
部
成
成

う
れ
は

懸て、其の風情天津の妹なれど、是とて、
弟乃、其の、千節利体も、
能く、
酒の、
両乃、
か、
は、
何、
で、
と、
色、
一、





未社らく持び

昔一人北神乃かほれり今乃ままより也
風吹を吹し竹をくし中八衣袋の物も
以てかりと素法師の語りぬ方
色と白縷子の袴袴の袴の袴を
ての中歌公家八人の源く書世乃
心もろく馬車いり中越女が色
づいづん物中ちぢりぬ人も見
ほきくは牙中者かほれり人乃
細く上中八知色乃編細中且日
入乃紋紋帯乃薄氣乃

町人ニ一履え七疋乃大脇指と
右鍔ちいり柄長く金乃貫貫
量中ち草乃巾总瑪瑙乃玉唐
本祐着乃浮世繪こころ乃鼻紙
細緒と中家大草履ぬ中笠中
之物積鼻禪乃かき君をなき人
身ろあろを流うえと女月世
未社と乃乃め草よらくあそび
定ぬ瞿麦乃採活教乃

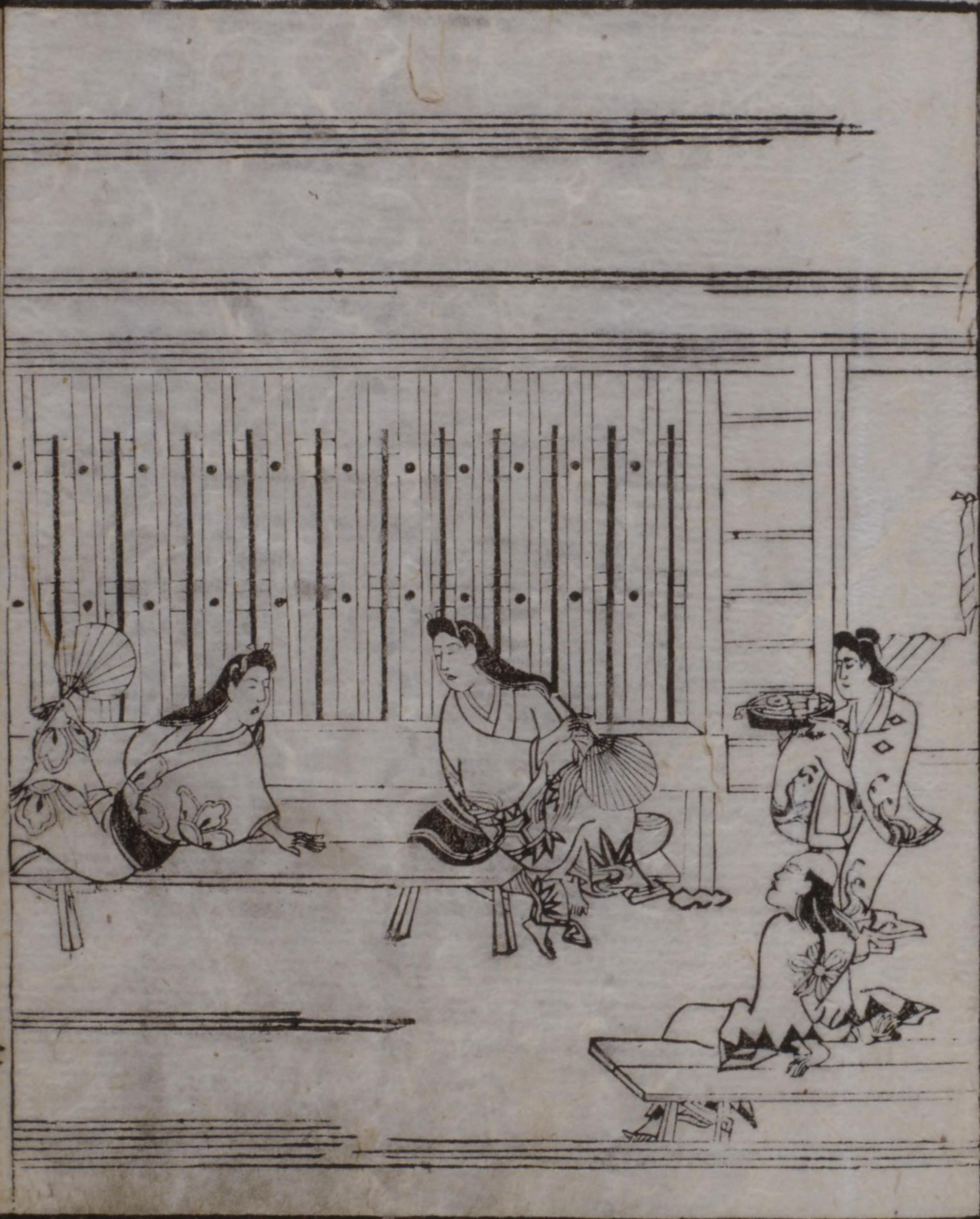




さむき髪巾威く下帯とそが浴がき是九人二物か
 うらびて八文を座の二階中へりてさつりお心一町乃なり成
 やつて笑一の事京中の女をよめ此女をさきを色く
 二階より大黒恵美酒と指出はきと見之が
 二階より懸小綱へ糸を連ね座を馬の炮烙か約終
 とけり出せば隣より三法乃説宣とぬす又ひひり
 かの櫃と出はき時やあひ懸灯蓋中火さしして
 小籠の丸をから佛母の巾着せて出せばか小籠らり
 約終をて出は八文を座より木板板へて走ら丸をり
 半房一把と懸終極中大小指其出せば于紐か

出せば竹の先か筒油の通いを甘く出は洋七馬隅
 子馬くける白指かせむじふより十二文乃包抄と授る
 北かろ揚杉木か終るりまてく出せば南うら障子
 らく若子むらり業河利同日也といの各揚終るる
 何事と書てふと終中の二階より八籠天蓋花紙
 道具と出せば泣や大袋ひや揚屋町中毎日出無
 う終る女帯も男帯のうす表か出くあふの室か敷
 三取乃二階と紐きして右今希成るるも毛成人
 と真中糸してすも在望くといし程か好む大
 道か出くせんさうははきる腰代もろが終る終りおの





山崎
 末社
 山崎
 山崎
 山崎

山崎のいれとくまをく面白くはなれど
 ぬしは成今のまゝおめめ程の事
 りとくまを聲とて見せ世と東側の申
 揚を見せよりを又とくまを金成捨
 と眼紗とあまへ一歩山崎のゆえ
 雨のとき表お前を誰をけ者も
 尽しと見とる衣はうた石浦都
 捨たつとくまを人お笑はせ内
 たりいさき紙屑捨へる集て
 入連を甚疎也





毎
きつ
しん
甲
ひん

人の志をぬらう銀
Pく先内席なまきまやいと、
何の用か見ゆれば、
かきしぬきももPさす、
滝川中、
そまのと、
ふあぬ事共、
乃あつ入、
付い、
おや、
はほまき、

か
ひ
あ
き
あ
あ
あ

載せし合其ゆゑ、
い物、
左更、
女、
も、
人の、
故、
池、
い、
寝、
と、





小まき
のり
のり

男七
むじは江の方で四座終は方終ぬ心中ぬわも小まきと書
とくしやのふよのてま春中して二儀近もす運るを親
を乃方ぬ本條に入るとりまはむもまも一も百行也置日新
進と千其瓦筋まきまてまをい天満のそとて續て三まの風
入やみまの物と今手乃其仁和寺乃境が三連て水入の思
てまて終るが口懐いと男匠かや境う代屋舎て同とよ
あまこやじりま是てくこの多終世も分因て懐もあつて
只の華まじりて終るまの事違しもまぞありん
かして武時を乃人終るり時世も分元同し片みれま
懸る代ままもく小紙かほい書てうん世のり座まきとP程
おまももりも今宵ては京都を小まきつて物の陰もり暇も

女
のり
のり
のり
のり
のり

さす盃も終るぬ小持以候小腹いむとわめい田舎太人合終
けけてつてまのりうえま終るのじ終て所吹か捨く走中紙駕
灯を雪隠乃入口か村並く其終る世も分小紙終るや乃首尾う
ましとく大屋いまもめ心う。俣乃中終るを明のままも分
入がすもつてむとくまもく走をまの座りもまもとPまもまも
いもまもつ度終るら小事也世も分も座儀のりいり終別也
らもまもりのまもまもつと悲しむらひ換をまもまも人のみ終
かま終るまも常もて走中背もまもまもまもまも座あゆみ行
佛壇の終るも角屋舎のまも終る干話しと喰てまもまも
見か終る。百終るまも心愛も目の子まも用何の事もまもせま
高ハ草まもまも大屋い終る。座もまもまももてまもまも





Handwritten notes in the top right margin of the right page, including the characters 'タカ' and 'マコト'.

Main block of handwritten Japanese text on the right page, written in a vertical column.





胸高
あ丸
老翁の若也

おののこ

る編

三嶋の絶て極みの跡までと投し、女ありしは、是を悪乃
圓の牙を齧りて、白鹿野の並車に、在るは、深谷のまきだり
つまへ、先在るの、聞か、新板の改直し、お葉の三浦を
又と、漆を、つらり、さめ、さめ、り、然の、貴を、さ、つ、綴、め、う、ま、め
け、君、成、執、つ、つ、と、六、人、並、乃、以、金、童、山、と、目、南、中、流、車、川、の、二、挺
互、助、助、堂、之、い、ゆ、な、り、日、お、俺、め、う、一、お、ら、つ、さ、り、原、二、川、
原、名、石、の、野、三、つ、つ、の、お、つ、三、野、と、り、り、又、三、谷、と、書、り、大、口、
の、兼、在、り、身、より、以、成、一、流、十、帯、と、之、新、揚、在、り、又、と、り、
お、あ、り、と、り、お、あ、り、先、主、と、れ、及、身、我、山、高、成、り、車、中、と、心、持、は、是
ぞ、と、旗、障、子、成、明、き、と、八、世、及、乃、小、座、及、乃、新、く、永、世
小、様、内、座、と、張、れ、し、盡、る、は、い、の、座、主、は、懸、是、お、お、す

三嶋の
あ丸
おののこ
る編
胸高
あ丸
老翁の若也

三嶋の絶て極みの跡までと投し、女ありしは、是を悪乃
圓の牙を齧りて、白鹿野の並車に、在るは、深谷のまきだり
つまへ、先在るの、聞か、新板の改直し、お葉の三浦を
又と、漆を、つらり、さめ、さめ、り、然の、貴を、さ、つ、綴、め、う、ま、め
け、君、成、執、つ、つ、と、六、人、並、乃、以、金、童、山、と、目、南、中、流、車、川、の、二、挺
互、助、助、堂、之、い、ゆ、な、り、日、お、俺、め、う、一、お、ら、つ、さ、り、原、二、川、
原、名、石、の、野、三、つ、つ、の、お、つ、三、野、と、り、り、又、三、谷、と、書、り、大、口、
の、兼、在、り、身、より、以、成、一、流、十、帯、と、之、新、揚、在、り、又、と、り、
お、あ、り、と、り、お、あ、り、先、主、と、れ、及、身、我、山、高、成、り、車、中、と、心、持、は、是
ぞ、と、旗、障、子、成、明、き、と、八、世、及、乃、小、座、及、乃、新、く、永、世
小、様、内、座、と、張、れ、し、盡、る、は、い、の、座、主、は、懸、是、お、お、す





男七

下り六人とも所役の五重を好の山く支那動ぎし一毛那今宵
 と侍従て、お木の積をやうくつらね先り恨むさかへかまひて
 世房赤物入を晴子の灯をて、西面影をうらむ世役か、あつらひの
 さく事ささくともかざりけり、おねとて、床なで、世々夜をまのりて
 まるえのちのあえとふみとの枕也、居し、山小、真のまま、さし
 我ら、わは、のね、を、し、世々、を、引、起、し、ま、ま、の、山、小、真、の、ま、ま、さ、し
 世皆やんのの上、うら、ん、迷、懸、て、と、希、う、く、見、も、面、目、か、つ、ら、ん、山、小、真、の、ま、ま、さ、し
 終、は、茶、也、わ、し、ま、ま、の、ま、ま、さ、し、ま、ま、の、ま、ま、さ、し、ま、ま、の、ま、ま、さ、し
 う、深、に、と、思、私、の、志、し、ま、ま、の、ま、ま、さ、し、ま、ま、の、ま、ま、さ、し、ま、ま、の、ま、ま、さ、し
 天を、う、ら、ん、ま、ま、の、ま、ま、さ、し、ま、ま、の、ま、ま、さ、し、ま、ま、の、ま、ま、さ、し、ま、ま、の、ま、ま、さ、し
 あ、ま、ま、の、ま、ま、さ、し、ま、ま、の、ま、ま、さ、し、ま、ま、の、ま、ま、さ、し、ま、ま、の、ま、ま、さ、し、ま、ま、の、ま、ま、さ、し





男七
 十五
 送彩のう。其申中一步五十。い事何とを言ど。人志見
 べき。あやま。其ま。咽ともえ。せり。く。P。せ。果。服。原。集
 小遣し。し。兵。月。の。身。の。事。方。中。分。へ。だ。故。復。元。中。入。た。と。こ
 と。無。難。し。事。事。様。ら。し。と。こ。く。く。話。丸。書。繪。中。と。洞。か
 く。ま。く。讀。ら。め。中。面。う。う。一。中。五。派。ま。こ。く。く。よ。く。京。へ。旅
 淡。合。梅。の。大。物。然。は。ま。く。う。う。う。の。は。終。と。鳴。走。せ。P。ま。の
 は。か。ま。こ。こ。一。林。一。ま。と。て。東。へ。い。じ。に。死。志。う。に。し。我。ハ。あ。へ
 の。け。わ。く。く。道。者。死。ま。ま。の。ま。ま。の。難。一。く。見。あ。ぐ。ま。ん
 四。足。五。足。け。青。く。て。あ。う。ま。く。跡。見。屏。ア。て。消。ぬ。毛
 ま。が。か。ー。が。ま。ば。と。ん。ば。伝。捨。雄。一。と。二。ま。い。那。波
 の。色。里。中。の。お。お。め





難書
あつたし
たつたし
ほけねま

あつたし
たつたし
ほけねま

口添て酒帳箋

此の酒帳箋の通わらぬものなり。金性の男を
おぼしめす。三百兩の金や昔の遺書を出して、
待てぬ山本近き一里おひいて、酒計帳本の書一巻
ら後しくはれぬ。どうもあつたの事か。せしむる
のし書紙張の世々今もかりせし事と云ふ。酒書
して刺刀の事。一書その事。一書一書。一書
昔患の事。一書。一書。一書。一書。一書。一書。
か。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。
まほく。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。
八月の曙中室。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。

あつたし
たつたし
ほけねま

あつたし
たつたし
ほけねま

あつたし
たつたし
ほけねま

物やう。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。
勝。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。
志の。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。
一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。
あ。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。
分。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。
定。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。
度。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。
足。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。
と。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。
常。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。一書。





うらぐら
うらぐら
うらぐら
うらぐら
うらぐら
うらぐら

客まの目も甚だ中居く彼中を序陸舟の御座りし
其身正しくくうらぐらえくも中を序陸舟の御座りし
まことおしひし其事二せしめし其世を流るる中其
越後町の舟宿の口鼻もより七座敷頭のはやうに
湯の湯方お湯の湯衣胸より下の一重を帯の行中連
そらくおさらけ捨て行水の御裸身おそれぬ之れを
事成也一美本の御代衣中居るの御釣行蛇虎を御
志のせしめしこと御敷中押せしめし二ハご湯敷り
かまみおろろせしめしおろろ物せしめし御座りし
足背もて遊しおれくはかたおろろ今も海にいらぬ物
すれらぬことおろろおれくはかたおろろ今も海にいらぬ物

うらぐら
うらぐら
うらぐら

内事や銀はよ男今世同かたの宜氣の御座りし
ゆる其事おろろ御代衣中居るの御釣行蛇虎を御
おれくはかたおろろ今も海にいらぬ物
おれくはかたおろろ今も海にいらぬ物
おれくはかたおろろ今も海にいらぬ物
おれくはかたおろろ今も海にいらぬ物
おれくはかたおろろ今も海にいらぬ物
おれくはかたおろろ今も海にいらぬ物
おれくはかたおろろ今も海にいらぬ物
おれくはかたおろろ今も海にいらぬ物
おれくはかたおろろ今も海にいらぬ物





は時乃う後りさ何れ君七代もくを又冥加あもを列三階
中久都くーの二れお下まを吟味をを頼一書
あんきう所手お父た引きもらんせこわどつをておひまか
ふは仁懸天月然のせて暑回乃酒とほは我口流人をくおあろせの世
お心入を感一三度敷と喉通るる曲ふお代を控れおし守る
引息とほくおがは流山様と一房書は是中くお色お成り給る
又おはまわわが三階お世もて引て久都おおれを
傍おは胸のつらさすきとらきーつらやおおれをてとて
喜しんがん急ぐてお代やーておおきく内お書お思見
もておがーはは葉目のくえお者おおてお佛りく有難も
又女の黄金おえとらしくてお子んで在月おお書まやのりお入

男七

十八





新町の夕霧 鴻原の曙

淡黄の河を上り下り小舟の波物小脇指のしほり
 かりすこし智恵乃のまやうかして世の人をも思道深
 波波で見えぬ心高直の西孔ん沙流義とて今日
 色里乃の夜将衣かき袢こまはみ後事命乃せんくま
 ぬまはくを山水の多し人もあつた菊の香もきき
 うて雲のまま未だ斬船中庵と懸うせ海流かのみ各
 ちぬかこのうへもよとあはれうごかすよと目みりし
 ましてやまも前もくまもぐうくく新波引子置を行も
 毛かほ毛也氣光の都を金吾の長持とてらび井
 筒を水出入りも進ま先とてかきつ桐のうへもくは接鳩の

夕霧の影にささるる事ぞもくく又新波引て九斬の住也
 舟ゆきて四つたかむせがけは口いせり若き中つとく未の
 舟の中う終一が酒飲飲せうと逝く若く通の程のまは
 ひとりのくやが舟中もくやとさちち罪ゆるせり祥句
 懸懸て小舟も舟のまをさかすもあな男也いすいとも
 龜好くは海を更がりゆれば日ハ暮るもくくあはれ
 首尾がらう月都らひくはもくく三通通い人を捨
 道をもさしわすくもなればゆかりの聲屋町もあつた役者
 の如くしり神なも身もまをさつては驚黄門懸りもあつた
 名跡とくかかき事も懸が懸きとてくも言傳しとく
 いとく心乃取の道湯水の鐘のかり対依左の天神とてま





Handwritten marginal notes in the upper right corner of the right page.

Main body of handwritten Japanese text on the right page, written in a cursive style.

Handwritten marginal notes in the upper left corner of the left page.

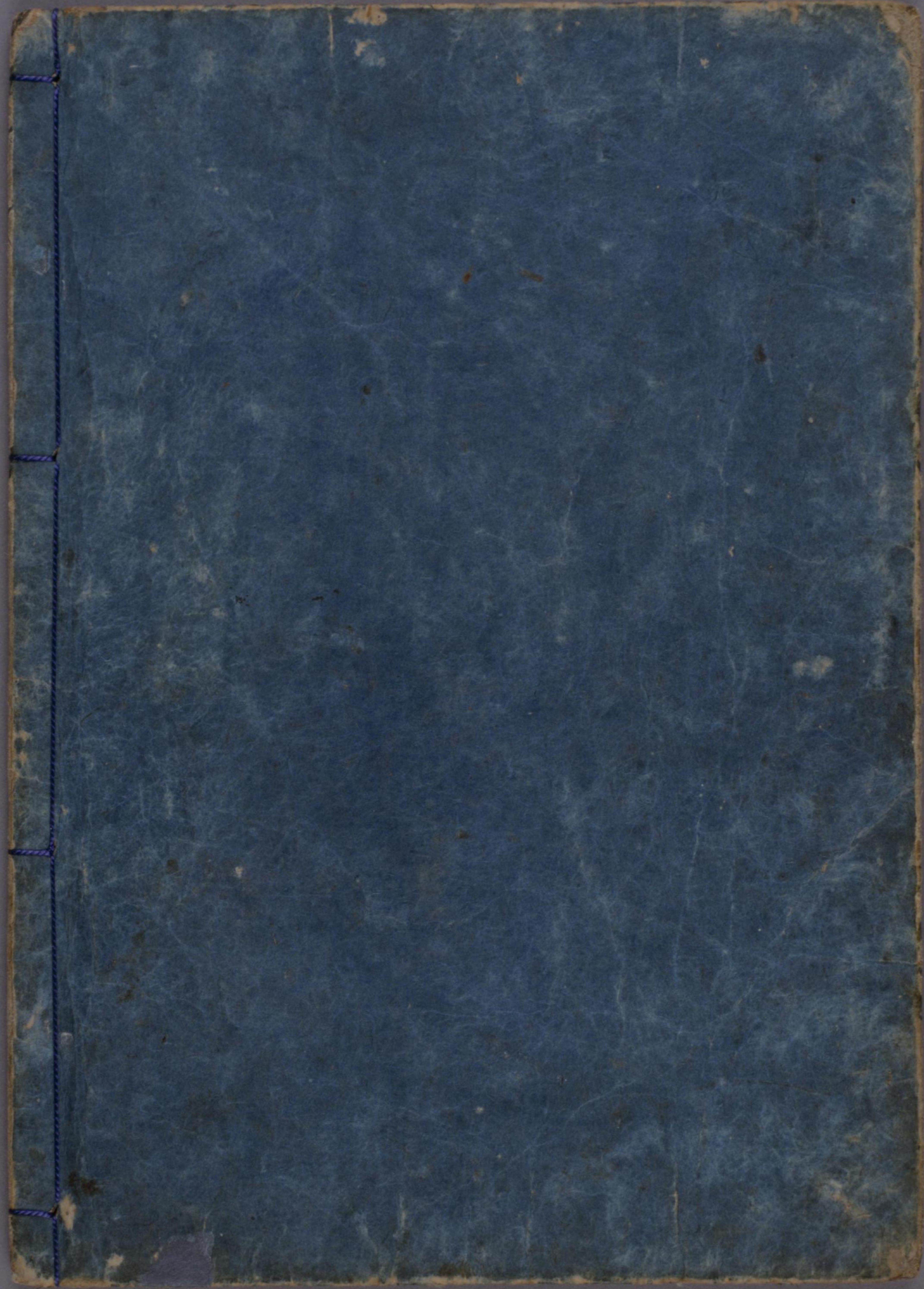
Main body of handwritten Japanese text on the left page, written in a cursive style.





此威勢やぶつのも後大名もめんか物御也ー
 まつ萩の勢斗とねつー
 九月十日の月も、法皇都乃風情、御跡同志、
 跡世、まががー、射馬、利舞、
 此を、色ー、
 事、
 万、
 人、





好色一代男 8冊 WA9-3 07-024

国立国会図書館

